

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
教務	基礎学力の定着をはかるため、学力テストを実施し、授業の改善につなげる。テストの結果を生徒、教員にフィードバックし、検討会を開きます。	基礎学力の定着に関して、数字では見えにくいですが、個々の向上が見られる。アクティブラーニングなど授業改善の取組みも進んでいる。	学び直し教材での学習、確認テスト、補習などを実施した結果、3年生の就職進学に役立ったが、さらに追跡調査を実施するなど、進路指導部と連携して取り組む必要がある。
進路指導	一人ひとりの適性に合った就職・進学希望の実現をめざします。 結果判明後の検証、卒業前のアンケート(後輩へ)企業からの評価、新規事業所の開拓件数等で評価します。	昨年につき、求人に関しては男子の製造関係が安定していたが、女子に関する製造職が相変わらず少ない。男子は学校斡旋での就職希望者が10月に100%内定。進学では、大学3名・短大7名・専門学校等9名。	AO入試を含め、面接指導が結果に結びついた。面接指導を繰り返すなかで生徒の意識が向上し、挨拶等のコミュニケーション能力が評価され内定に結びついたケースもあった。求人件数は増えているが、希望する職種はまだ少ない。また早期離職者がある(昨年度卒業生3名)。
生徒指導	校則にかなった服装を徹底させ、落ち着いた学校を浸透させる。それを進路活動にも生かせるようにする。特別な指導時だけでなく、普段の授業その他でも教職員全員が指導し、生徒指導部・担任・保護者が、連絡を取り合い協力する。	頭髪・服装指導は、昨年同様、自ら正し指導に臨む生徒が多くなった。 遅刻指導は総計としては、毎年減少傾向である。	指導日を意識し、自ら改善することを目標として成果はあったように思うが、指導日以外の日常時(化粧・スカート)に関してはまだ不十分であった。遅行総数としては減少しているが無断遅刻・無断欠席が見られる。また苦情電話の件数は減少しているが、今後も校外指導を実施していきたい。

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	①地域の関係機関との交流・連携が強化され、地域の自然・人々から多くのことを学んでいる。 ②小規模校であることから、生徒との密な人間関係が築かれ、全職員が個々の生徒に寄り添い、粘り強く支援できている。 ②家庭、担任、分掌の連携が強く、個々の生徒に対し一貫した姿勢で対応できている。
弱み	①小規模校のため、教職員一人ひとりの役割分担による仕事量に差があり、業務分担の見直しを更にすすめなければならない。 ②基礎学力定着・向上の取組みは一步進んだが、生徒の意欲的な授業参加にまでは至っていない。 ③生徒に主体性や自律(自立)を身につけさせる具体的な取組みがまだまだ少ない。 ③学年団や分掌がそれぞれよく努力しているが、情報共有の面ではまだ十分とは言えない。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数>	2 回
実施内容	1 学校関係者評価委員 5 名と学校職員 4 名（管理職 3 名、推進員 1 名）の計 9 名で構成され、7 月と 2 月の 2 回開催した。 2 第 1 回 ①学校概要報告、②今年度改革方針の説明、③学校アセスメントや関係者評価の日程・内容やすすめ方の説明、④質疑応答 第 2 回 ①学校概要報告、②学校自己評価等について意見交換

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	生徒の状況や進路、地域での活動など学校の教育活動全般について、おおむね良い評価が得られた。 今後は、活動の様子や取り組みをさらに地域に発信し、入学定数を満たすことが出来るよう、魅力ある学校づくりが求められた。

(5) 組織力向上のための取組（改善策）

次年度に向けた取組	
1	平成 26 年度に度会町を中心として活性化協議会が設立され、様々な支援計画が策定された。今年度は支援計画実施初年度であり、その成果をもとに、次年度はさらに具体的な取り組みをすすめる。
2	基礎学力の定着・向上について、生徒の自主的・意欲的な学びの構築に向けた取り組みをさらに強化する。
3	早期からのキャリア教育の徹底や自己管理能力の育成を通じ、より自立した生徒を育てる。
4	中学生やその保護者・地域に対し、学校の様子や取り組みをさらに積極的に情報発信をしていく。